

やたか

登録番号：第1450号

育成者：平良木忠男

登録年月日：昭和62年11月12日

来歴：「ふじ」の枝変わり

登録者：秋田県(平鹿郡増田町亀田
108番地)

特性

■栽培特性

樹姿開張性、樹勢中ないし強、樹の大きさ中ないし大で原品種の「ふじ」と類似する。枝梢の太さ、節間長、短果枝の形成、えき花芽の着生、1花叢当たりの花数、花の大きさ、花卉の数、雄ずいの数、葯の色の面でも「ふじ」と差はない。結果樹齢に達するまでの期間も「ふじ」と同様に中位である。盛岡における発芽期は4月の初めで、展葉は4月20日頃、開花期は5月15日前後となり、原品種の「ふじ」とほぼ同時期である。「ふじ」を除く主要栽培品種（「つがる」、「王林」等）との交雑和合性は高く、いずれの品種とも相互授粉樹とすることができる。樹勢が正常であれば、早期および後期の生理的落果はほとんど認められず、安定生産が可能である。盛岡における果実の成熟期は10月中旬で、「ふじ」より3週間程度早く、各県の試験成績でも20日から25日程度の熟期の促進が認められている。

本品種の特性としての最大の特徴は原品種の「ふじ」より熟期が3週間程度早くなることで、これが種苗法に基づく品種登録要件の区別性として重要な位置を占めている。

■果実特性

果形は円～長円の斜軸で、原品種の「ふじ」に酷似する。梗あは広くて深く、がくあは広さ深さとも中位である。果実は大で平均350g程度となる。黄緑色の地に鮮紅色ないし紅色に着色するが、色沢は「ふじ」より若干淡い。縞はよく発達し極めて明瞭。早熟系枝変わり品種として、原品種の「ふじ」より地色のあがり、着色の開始時期は明らかに早いが、最終的な着色の仕上がりは「ふじ」と大差がなく、着色の面では変異をきたしていない。さびは通常問題にならないが、梗あ部に若干発生の認められることがある。「ふじ」と同様、梗あ部に裂果を生ずることがあるが、その度合いは「ふじ」と差がない。果肉は黄色、硬さは中で「ふじ」よりやや軟らかく、果汁の量は中ないし多、肉質はやや粗い。蜜入りは中から多で糖度は13～14.5%、酸含量は0.4～0.5%で食味は中から良である。梗あ部裂果以外に生理的障害は認められない。日持ち性は中で「ふじ」よりかなり短い。

■病虫害抵抗性

斑点落葉病に対する抵抗性は中ないしやや弱であるが、慣行の防除歴に準じた薬剤散布で容易に防除することができ、特別散布は不要である。

■地域適応性と栽培上の留意点

果実の成熟が25日程度早くなることを除くと、栽培性、その他の面で原品種の「ふじ」と変わるところはないことから、「やたか」の栽培は「ふじ」に準じて差しつかえない。

「ふじ」の栽培面積は平成2年度で約43%、生産量は約51%に達している。単一品種の占有率としては過去に例を見ない高率を示し、近年、過剰生産に基づく価格低迷をきたし問題となっている。したがって、早熟ではあるが味の点で「ふじ」と差のない「やたか」の利用価値はさほど大きくない。ただし、原品種の「ふじ」は熟期が遅く、年によって収穫前に凍害を受けることがあり、さらに、その気象条件から完熟前の未熟果を採取せざるを得ない地域もある。このような地域では早熟系枝変わり品種としての「やたか」の利用価値はかなり高いものと考えられる。しかし、その採用に当たっては、当該地域における「やたか」の成熟期が温暖地の「ふじ」とどれくらいの違いがあるか、さらに、他品種との市場における競合関係がどうか等について十分検討する必要がある。(土屋七郎)